

「はじめましての」短歌集

令和5年11月25日

塩尻短歌館指導員 藤森円



先日は「はじめましての短歌入門」にお越しいただき、ありがとうございました。私としては初めてのオンラインでの講座だったので少々心配でしたが、スタッフの皆さんの奔走のおかげで、安心して無事に行うことができました。皆さんの目の前で対面でやり取りをした方が、たくさん書けるんだろうなと思ったのですが、このような状況の中でも多くの素敵な短歌に出会うことができ、感激しております。まことに勝手ながら、皆さんが作られた短歌から一首選び出し、コメントを付けさせていただきました。コメントと併せて、他の方々の短歌も楽しんで鑑賞してください。カッコ内は、この講座中にできた短歌の数です。1首だけの方こそ、一生懸命悩んだり迷ったりしたことで確実に心を磨いていったはずです。多く書けた方は、その調子でたくさん書いていってください。思いがけない名作と出会えます。テクニックの前にまず、いっぱい書いてみんなで楽しみましょう！

(敬称略)

あおぞらに飛ぶ赤とんぼながめつつ昼から飲む酒だいすきなんだ

(乙守淳平さん)

秋晴れの爽やかな情景を表現したうえで、昼間から酒を飲むという大胆な後半。何か特別な事があったあとの開放感が感じられますね。(5首)

ともだちとさけのみながらキャンプといざかやめしがだいすきなんだ (後藤喜彦さん)

友達との過ごし方を二例出ただけなのに、これほどにまで仲の良さが伝わってくるとは。具体的な題材に説得力が生まれるのです。(1首)

ちちとははろくさいしたのおとうととがいしょくするのがだいすきなんだ (佐藤千尋さん)

「六歳下の弟」は、読者の想像力を掻き立てます。幼い弟の場合や成人の弟などの場合で、味わいが違って感じられるので楽しいです。(1首)

つるねからはじまりまるとに当たるおとこころにひびくだいすきなんだ (萩森靖子さん)

ツルネ「矢を発したときに弦で弓を打つことで鳴るといわれる音」だそうです。専門用語は強力な説得力となります。情熱を感じます。(3首)

あいけんと朝のお散歩帰ったらおいしいごはん大好きなんだ (片山いずみさん)

何気ない一日のルーティーンだけこの愛犬との関わりこそが人生に潤いをもたらしてくれるのでしょうか。愛情が溢れています。(2首)

他にもたくさんの短歌をつくっていただきました！みなさまありがとうございました！